

生産性向上支援訓練 利用者の声

Training to Support Productivity Improvement

株式会社伊藤製作所 様

所在地 三重県四日市市
従業員数 134名(2022年8月26日現在)
事業内容 順送り金型設計製作、プレス部品加工、部品組立



■ 支援概要

把握した課題と要望

- デジタル化を推進するにあたり、全社的に知識を共有する必要があった。
- 外部委託によらないデジタル化の推進・体制を構築したい。
- 一般社員におけるデジタル化アレルギーを解消したい。
- デジタルを活用した改善を推進できる管理職を育成したい。



訓練後の成果

- デジタル化のできる範囲や改善の効果を知ることができ、受講者全員が前向きに取り組む姿勢になった。
- 個々のルーティンワークやチームでの業務など身近な部分で「デジタル化による業務改善」の取組が始まっている。

生産性向上支援訓練

提案内容

「デジタル技術」を活用した業務改善等の知識を習得できるDX対応コースに関するカリキュラムを提案した。

受講した訓練

コース名：「ITツールを活用した業務改善」
「DX(デジタルトランスフォーメーション)の導入」
実施時期：令和4年7月～8月
受講者数：延べ30人

■ 利用者の声

事業主の声

Q 会社概要とデジタル化に関する取組みについて教えてください。

A 当社は1945年の創業以来、9,000型を超える順送プレス金型を製作し、その金型を使用して自動車用精密プレス部品の量産を行っています。1996年には顧客の現地調達ニーズに応えるためフィリピンに進出し、2013年にはインドネシアに進出しています。2017年からはプレス加工のIoT化や業務のデジタル化にも取り組んでいます。

Q 訓練を利用した感想と今後の活用について教えてください。

A DX(デジタルトランスフォーメーション)についての漠然とした理解から、DXを活用すると「業務改善」や「仕事の効率化」が可能になると気づくことができました。今後は、全社的なデジタル化を推進していくとともに、各部署での課題などを洗い出し、デジタル技術で業務改善を推進していきたいと思っています。



技術開発室長 伊藤様

受講者の声

Q 訓練を受講された感想を教えてください。

A • DX(デジタルトランスフォーメーション)についてよく理解することができました。
• 他社のDX成功事例を教えていただけたのがよかったです。
• グループワークの時間が設けられており、業務内容の異なる他部署とディスカッションできたのが新鮮でよかったです。

Q 今後の抱負を教えてください。

A • 今の業務を全て当たり前と思わずに、まずは自身の業務内で効率化できそうなところを洗い出し、改善できるよう様々なツールを活用していきたいと思っています。
• 大きな目標を立てる前に、身近なことの改善を行っていききたいと思います。
• DXを推進するためには段階的に進める必要があるため、業務の効率化やデジタル化を行っていき、最終的にDXに繋げていきたいと思っています。